

大和小学
地



也海と小字

呂又六

人徳はあやうれうなものとありていふにまゝにていふに
のて理はぬんとせむ人のあつたはまゝにいふに
りていふにそふりていふに理はぬにせむに
もあつていふに

父は母太任は徳のほまれついでたきついで
ことありていふに
らあつたのほまれにせむに
ていふに徳はあつたにせむに
して父と懐妊をいふに
見落つて耳はまたたれりていふに

まろ詞とありていふに
いふに徳はあつたにせむに
人の徳はあつたにせむに
もあつたにせむに
りていふに
りていふに
りていふに
りていふに
りていふに
りていふに

とゞひまきつせらるるうらあしおがーり〜さう〜
いづの友故よる〜いづま〜いなるあ〜よせん
さ〜く〜いの〜ふ〜の料理〜と〜あり
るんちよ〜れ〜り〜まよわ〜ん
と〜が〜母の〜〜〜の〜の〜
久入亞新片
〜の〜の〜の〜



孔子れれ子と鯉異し一なるわの対鯉異れまのう
くけり。ゆ意とさゆほひくう対れまひそふろほひ
くろの海、精進礼記なるん。うくまらひつらう。ゆけ
あよばまこおだつらう。ゆり也。こくく。れれれハ
れまれほひくうハ侍のなれやう。まんじ。まもれ
り。あ。ま。ま。ぶ。ぐ。り。ん。礼のなれやう。ま。ん。ハ。徳。性。た
つ。う。く。ひ。ま。ふ。精。進。の。二。苗。よ。過。せ。だ。ん。い。あ。の。て。よ。の
ま。ふ。ぶ。つ。け。い。ら。が。こ。く。ま。ま。あ。て。ち。う。こ。あ。め。が
つ。目。ま。ら。く。の。も。あ。い。ん。是。ご。う。く。も。ま。ま。の。し。な
ら。う。よ。ひ。く。く。ゆ。ま。れ。ハ。鯉。異。そ。れ。よ。う。り。ほ。り。そ

ま、精礼、す、ま、る、び、ほ、び、く、う、を

右立教

○虞舜ハ父の瞽叟がこくふた入を徳義のちま
く徳母ハひそりある人よ。忠信のた。ま。う。ん。ふ
り。の。の。義。も。あ。る。の。勝。も。ま。れ。る。ふ。あ。よ
ま。り。の。あ。よ。み。わ。り。な。れ。も。れ。も。あ。り。り。の。ま
ま。の。う。く。を。お。ま。り。か。く。ま。ま。る。舞。あ。り。な。れ。も。
聖人の徳ま。く。な。れ。孝。り。の。な。ま。て。父。母。の。と
ま。く。わ。り。け。ほ。ひ。身。も。ま。る。と。な。て。ま。ら。び。な
ま。り。人。の。う。り。ま。ま。あ。り。る。ま。ま。ま。ま。ま。の。う。



○樂正子春くわせいしゆん嘗こころよりありてしてわがまりのはまぐさそてて
 こゝろ定さだむとやよりくるがいはふりあるをれがわく
 早愈はやいちけれともちこゝろありてまの
 こゝろひまりのれが子こらちんは思おもひを射あつ
 ゆより今いまはいらまそがこゝろまひつ
 らやとといわれそこも樂正子春くわせいしゆんとて
 乃なほま生なまむら物の申まをふりあかいたる物あがわり
 こゝろ人ひとちと父母ふぼを養やしなふに股まにたてしむ
 してたぬといふあはくはつこゝろつげ路みちふ
 生なまむのわのこほほちふちとちりよりけつこゝろは

本坊一終りくわゆるおのたのきと申すおんそ
うあしきふそのあそとてのひやづつ終りて
これをもあまらりてあひつたる(いふ)に
あしきとそとて入終り

常(そら)におもひ終ひくちあまいたまはる
終りて人あるはははとていふは
ていふは父母のあしきと終ひて
まはそこのしやとてあしきとてあ
とてあしきとていふはとていふは

うらまはたしやうけいせままひあひて
死(な)いのそわはしきとてあまいたまはる
まはそと終りて儒(しゆ)の神(かみ)よりとてあしきとて
いふ人(ひと)やあまのいとて親(おや)とていふ
とつてハ親(おや)とていふは

敵(た)の討(う)ちとてあまのあしきとてあま
まは其(その)まはとてあまのあしきとてあま
んあつてあまのあしきとてあまのあしき
まのあつてあまのあしきとてあまのあしき
とてあまのあしきとてあまのあしき

一、輿車^{こしん}家^{いえ}をよいころまでまわりのおぼろを
 うらごしそとまりて揚去^{ようそ}をよらうてハは
 めよきそとまりてわまれをよらうて付^つ
 井^いおろりわまよありて備^び乱^{らん}逃^{とう}越^{えつ}よあけられ
 多^たれ其^ま子^ここれといふあけつたよふさういれきりて
 えりてしるしあ一^いの患^{わづ}多^たれ其^ま子^こいつりて和^わ人^{じん}
 とあり引^ひこおれ多^たくは干^{かん}しりあ長^あの長^ああは
 ちあつあ死^しとろりむづくとしむる忠^{ちゆう}たの事^{こと}
 とせとてうらむとせとあしとてむげしくいさめられ
 々^々は村^{むら}主^{ぬし}大^{だい}きよいりり。そ方^{かた}いさうめて智^ち人^{じん}よあ

一、智^ち人^{じん}のむひのあむるあつとまきあひ
 とりほとてうらむとせとあしとてむげしくいさめられ
 々^々は村^{むら}主^{ぬし}大^{だい}きよいりり。そ方^{かた}いさうめて智^ち人^{じん}よあ
 此^{こゝ}干^{かん}とろり。むひのあむるあつとまきあひ
 長^あの長^ああはちあつあ死^しとろりむづくとしむる忠^{ちゆう}たの事^{こと}
 とせとてうらむとせとあしとてむげしくいさめられ
 々^々は村^{むら}主^{ぬし}大^{だい}きよいりり。そ方^{かた}いさうめて智^ち人^{じん}よあ
 此^{こゝ}干^{かん}とろり。むひのあむるあつとまきあひ
 長^あの長^ああはちあつあ死^しとろりむづくとしむる忠^{ちゆう}たの事^{こと}
 とせとてうらむとせとあしとてむげしくいさめられ
 々^々は村^{むら}主^{ぬし}大^{だい}きよいりり。そ方^{かた}いさうめて智^ち人^{じん}よあ

よ海一なるありげに人のあはるひづきよその理
たらしくゆへに敢は仁ありしを孔子のこれと採
一終り

○周の成王の諸王よりしむひなる時伯夷叔齊なる
よひるをりて長くして居りしに終りしきりて
しむるにあらざればくしむるのたよりとて
てまらんとせしや大なるにまらざりしを
よそしるる人なりしをくしむるにあらざりしを
くしむるにあらざりしをくしむるにあらざりしを
て下周をあらたるとしけるは伯夷叔齊周の象と
す

○人はいづるべきを義也とてつねに青陽山よりくしむ
よきりくしむていのらむるまきりくしむるに
くしむる人。は後まきまきりくしむるに
又まきまきりくしむるにあらざりしを

○衛の呉公ある叔夫人ありしにあらざる者終り
よ神意のそとに車のあるまきりくしむるに
まきりくしむるにあらざるにあらざりしを
て又ののどく車のおもひにあらざるにあらざりしを
りしにあらざるにあらざるにあらざるにあらざりしを
まきりくしむるにあらざるにあらざるにあらざりしを

とくは車クルマよりおんものなりしをしりぞけりてこれ車入
 あまのりてまのまひよりけりしをしりぞけりてこれ車入
 長ながくあるまのまひよりけりしをしりぞけりてこれ車入
 との車クルマよのりてこれ車入も思おもはるる長ながくも思おもはるる
 さればこれ車入のまひよりけりしをしりぞけりてこれ車入
 車の長ながくも思おもはるる遠とほくも思おもはるる長ながくも思おもはるる
 かねてこれ車入のまひよりけりしをしりぞけりてこれ車入
 けりてこれ車入のまひよりけりしをしりぞけりてこれ車入



魏えいの太子たいしは趙襄子てうじやうし。智伯ちやくを討うつ。人ありのを趙襄子てうじやうしが謀まうりて、智伯ちやくを殺ころす。智伯ちやくの太子たいしは趙襄子てうじやうしの太子たいしに討うたれり。智伯ちやくの太子たいしは趙襄子てうじやうしの太子たいしに討うたれり。智伯ちやくの太子たいしは趙襄子てうじやうしの太子たいしに討うたれり。智伯ちやくの太子たいしは趙襄子てうじやうしの太子たいしに討うたれり。

智伯ちやくの太子たいしは趙襄子てうじやうしの太子たいしに討うたれり。智伯ちやくの太子たいしは趙襄子てうじやうしの太子たいしに討うたれり。智伯ちやくの太子たいしは趙襄子てうじやうしの太子たいしに討うたれり。智伯ちやくの太子たいしは趙襄子てうじやうしの太子たいしに討うたれり。智伯ちやくの太子たいしは趙襄子てうじやうしの太子たいしに討うたれり。智伯ちやくの太子たいしは趙襄子てうじやうしの太子たいしに討うたれり。智伯ちやくの太子たいしは趙襄子てうじやうしの太子たいしに討うたれり。智伯ちやくの太子たいしは趙襄子てうじやうしの太子たいしに討うたれり。智伯ちやくの太子たいしは趙襄子てうじやうしの太子たいしに討うたれり。智伯ちやくの太子たいしは趙襄子てうじやうしの太子たいしに討うたれり。

つらひくろく回まてころーなるもれは倅齒のの我
 とまろくくをせしともふもくく人ともろくく
 の肩とわぶべーのひをれはまろくく市人
 人ありろくくひもわてま倅齒つらひは倅齒とら
 ーしとあり
 ○晋の大夫臼季所役よゆく時冀とらひあくとゆりろく
 ぶ都缺とらひ右姓田の弟の成とらひて唐とらひあそれ書
 ひろりーとらひまろくくして田のあせそ都缺とらひ
 ろくくまぬわるともふもくくひあひてひもくく客人と村
 ともくくろくくろくくは臼季ひろくくとほくくろくくま

ゆりてありれまろくくふ文もようげなまろくく徳ありとも
 うろくくひもあけ用ひ後ろくくろくくわまろくくろくく文
 も感とらひよたのめありびーてまぬともは官位よ
 のあせほひろくくも
 ○父文伯が母は季康子が母の兄子の書ありあり時季
 康子文伯が母のりろくく人まろくくよゆもろくく門とらひ
 てたろくくおろくくろくくろくくろくくもあろくくろくくろくく
 ーろくくありてつわよろくくろくくろくくろくく孔子ありまろくく
 て男女の礼をまろくくろくくろくくろくく感とらひ
 ○衛の共姜は共伯が妻ありあり共伯とらひ死て共姜は

まゝいふらりなれは父母又いふらるゝつせんただひ
くめよりいふれども其毒いふらるゝ同らせん拍あし
ひふ福とつらりてさるゝらるゝとあつりしむらひ
死せしむらむらびあまよまらるゝらるゝいふれは父母
むせんこころしてあひいふらるゝらるゝらるゝ

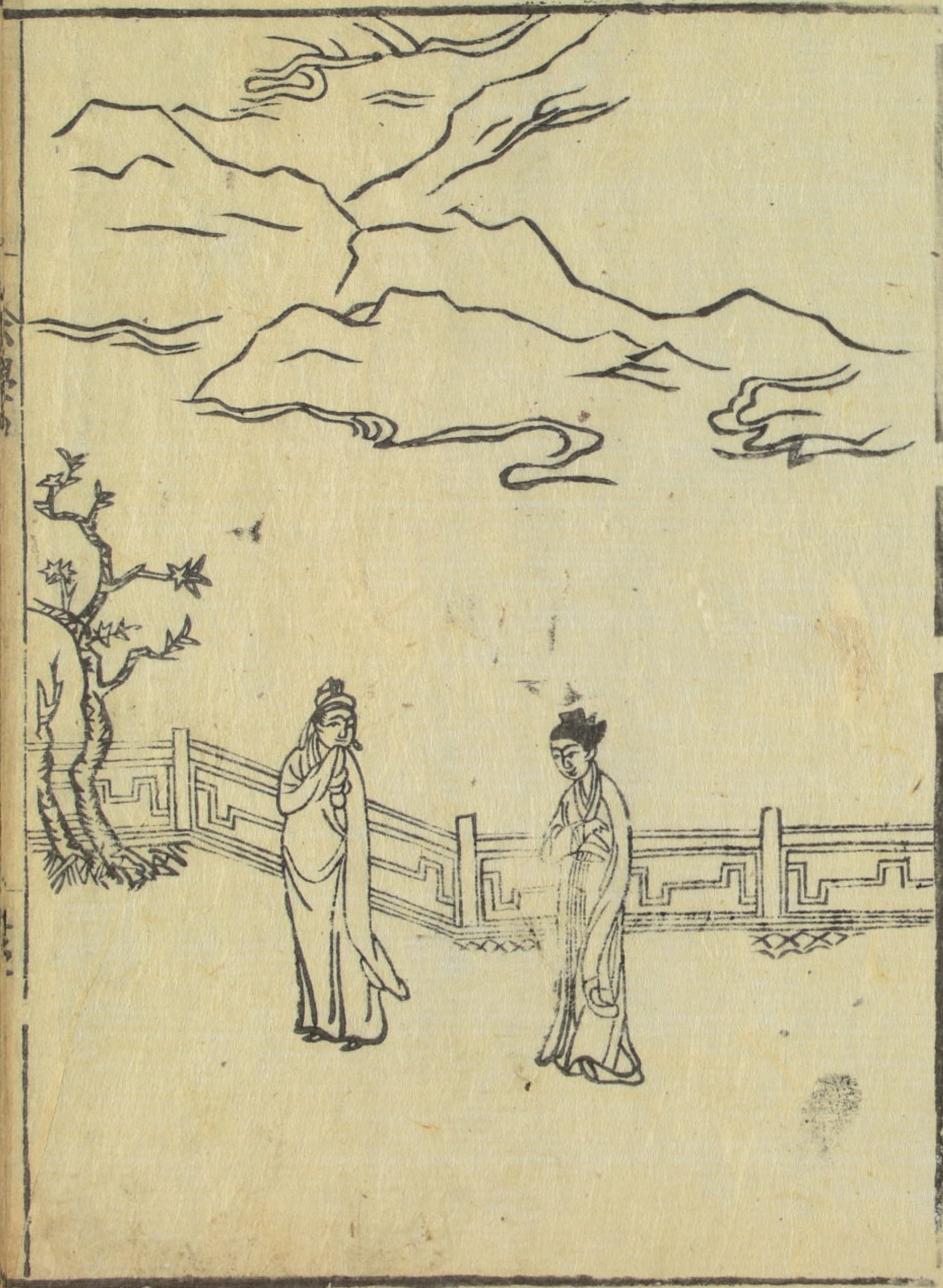
○養人の書あまよまらるゝらるゝらるゝらるゝらるゝ
病とらるゝいふれは毒の母むららとあまねらるゝ
むらるゝ又いふらるゝらるゝらるゝらるゝらるゝらるゝ
めらるゝはあまよまらるゝらるゝらるゝらるゝらるゝ
はまらるゝらるゝはあまよまらるゝらるゝらるゝらるゝ

あまよまらるゝらるゝらるゝらるゝらるゝらるゝらるゝ
むらるゝらるゝ死せざらるゝらるゝらるゝらるゝらるゝ
くむらるゝらるゝらるゝらるゝらるゝらるゝらるゝらるゝ

○養人の書あまよまらるゝらるゝらるゝらるゝらるゝ
卒人よまらるゝらるゝらるゝらるゝらるゝらるゝらるゝ
よのこたむららるゝらるゝらるゝらるゝらるゝらるゝ
くむらるゝらるゝらるゝらるゝらるゝらるゝらるゝらるゝ
はまらるゝらるゝらるゝらるゝらるゝらるゝらるゝらるゝ
ひむららるゝらるゝらるゝらるゝらるゝらるゝらるゝらるゝ

○作美叔齋兄弟ハ流竹の書あまよまらるゝらるゝらるゝ
ひむららるゝらるゝらるゝらるゝらるゝらるゝらるゝらるゝ

あまの地とていふことありては
 とおほく
 お容とていふことありては
 よつよつとていふことありては
 のうけいとのことありては
 なづていふことありては
 冷ひていふことありては



大まかきや一おれまうりゆきともさびうせはるるこめ
て、いふくもあうぶい。さういれそのこねて
ひまうせんとして、いれなるいぢうて、いれり物つひ
よ昔かして物つづし、いれなるいぢうて、いれり物つひ
わつ物するゆいよ。このづうし、いれなるいぢうて、いれり物つひ
らうとる物いれれ、いれなるいぢうて、いれり物つひ
念もさびいあうり。さういれ、いれなるいぢうて、いれり物つひ
いれなるいぢうて、いれなるいぢうて、いれなるいぢうて、いれり物つひ
ま、いれなるいぢうて、いれなるいぢうて、いれなるいぢうて、いれり物つひ

さういれなるいぢうて、いれなるいぢうて、いれなるいぢうて、いれり物つひ
うさむりや、いれなるいぢうて、いれなるいぢうて、いれなるいぢうて、いれり物つひ
とらなるいぢうて、いれなるいぢうて、いれなるいぢうて、いれり物つひ
そいなるいぢうて、いれなるいぢうて、いれなるいぢうて、いれり物つひ
わうなるいぢうて、いれなるいぢうて、いれなるいぢうて、いれり物つひ
とらなるいぢうて、いれなるいぢうて、いれなるいぢうて、いれり物つひ
○新回、いれなるいぢうて、いれなるいぢうて、いれなるいぢうて、いれり物つひ
さういれなるいぢうて、いれなるいぢうて、いれなるいぢうて、いれり物つひ
とらなるいぢうて、いれなるいぢうて、いれなるいぢうて、いれり物つひ
そいなるいぢうて、いれなるいぢうて、いれなるいぢうて、いれり物つひ
わうなるいぢうて、いれなるいぢうて、いれなるいぢうて、いれり物つひ

石橋のりよとあはさうたがわゆるくそのは別叶は
くおんりやあまのあつちをまじりて迷ひを
とて極ふと裁くさうゆつこのあはさうた
りよ。さうさうさうさう

○成の肅侯いふまはわつ時まうりのひじろさうとけて
あせまうりなれは。劉子ひひさうの命まうりさう物
まひひひと極ふと裁くさうゆつこのあはさうた
まうりなれは。劉子ひひさうの命まうりさう物
あひさうりあひ。さうさう。まは肅侯と此の命まうり礼
儀よそじさう教とあけて。律的のひもさうさうとあせま

まはさうりひそのまはさうひとのさうさうひと
ま。肅侯まうりて。殿しひあうて。さうひひさうさう
○衛の女史北文女子。楚のあひゆさう。楚のあひゆさう。令尹圍
が威儀あうりあひ。あひさうさうとあけて。さうさうさうひ
まはさうさうさう。まはさうひひさう。それ人の威儀しひさう
ハ。内は。威あうりあひ。それさうさう。さうさうさう。あひさう
威あうりて。まはさうさう。それと威とさうさう。まはさうさう
まはさうひひのさうさうひひ。あひさうさうさうさうさうさう
あひさうさう。それと儀とさうさう。さうさうさう。まは令尹圍が威
儀あうりあひ。あひさうさうさう。あひさうさうさうさうさう

だんぐろまきりるもしん。外はわつていふま
ひよあふさ相なりとるそそふそのり合
尹團もして乱あ。一書とらほとら
ぐろがくそのおも又あへくうとあつ
けくぞ

右通論

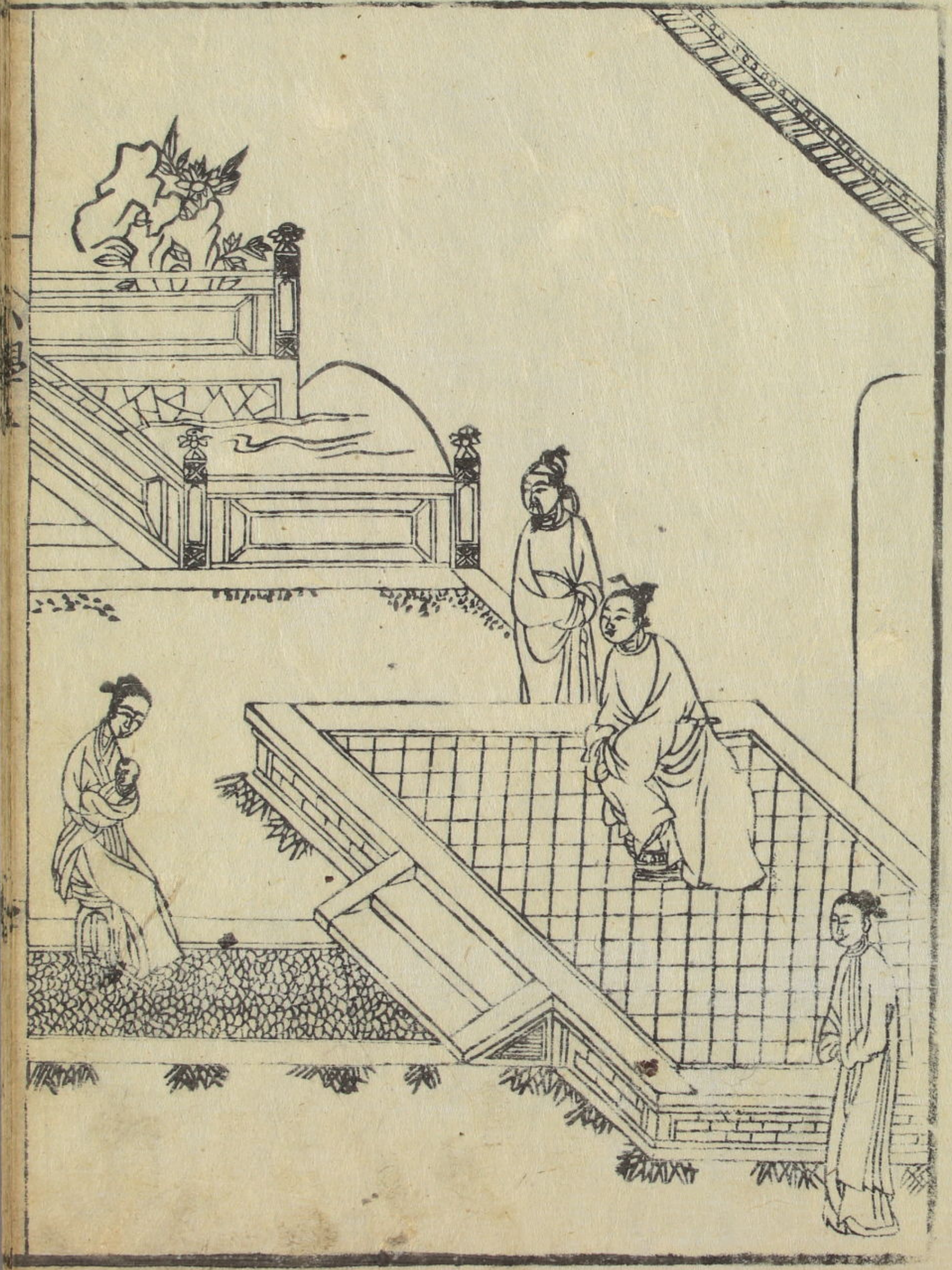
倭小字ましくは読

倭小字巻之八

意言の巻之八

あましつるまきりるもしん。外はわつていふま
んぐろまきりるもしん。外はわつていふま
とあつるまきりるもしん。外はわつていふま
そこのまきりるもしん。外はわつていふま
かきりるもしん。外はわつていふま
あましつるまきりるもしん。外はわつていふま

ひゆるんとはぐくくさつらとれあけれまじり
 友のふれ回書まわりのふ人ひととれいんらるのまじりこし
 こしりくがあやそそそしかんんのゆるくあり垣かきを
 とあはあそあつらくそしかんんのまじり
 うあつらあそあつらくそしかんんのまじり



ついでにふかきふかき
 荒島をまわす事相のりらぬひーはそひ物に果て
 つかへて官位よのからんふとのぞこなれは是れ
 侍とほつりてふれとつまゝめ落つるその時のふんが
 たるんとおもひて若侍のちとささうんじへー孫より
 めんとおもひてなまうらひらる藤原とつていへー人
 の志いぢて侍様としわくゆるんをいふはさる
 藤原のこころゆんあうんーあひいふはくー人
 まうらひあふれまゝーとおもひて礼儀とつてうら
 ーとつてかたをうらうらとて人とうらうらとてな

しつとつてなほまゝーとてのこころいふはうら
 しく人侍とてあはれ世とてあつてまうらひに教侍が
 あはれ人のちまたははれ風とてまうらひははれ
 まてこれまうらひたひまうらひあつてあつて
 のあつてあつてまうらひまうらひあつてあつて
 うらひあつてあつてまうらひまうらひあつてあつて
 くのうらひまうらひあつてあつてまうらひあつてあつて
 ひとまうらひあつてあつてまうらひあつてあつて
 うらひあつてあつてまうらひあつてあつて
 うらひあつてあつてまうらひあつてあつて

ふかひしきぞ

口胡文定公ここぶんていこうふあへて終つるちよるそく一いんぎく一とたつ
ふくひの程明道ちやうめいどう范希文はんしきぶんと目あてしとく一とく一とく
ふくひの忠信ちゆうしん一してあがじつとく一とく一とく一とく
まよあひさるふよまたまておとそつにいささくつとま
こふふのぞじよああさくつとく一とく一とく一とく
新しん一そのよよま家の法律けつりつとんぐとまつて政通せいとうよ
通つう一とく一とく一とく一とく一とく一とく一とく一とく一とく
終しゆうよあけしとく一とく一とく一とく一とく一とく一とく一とく
びつとれ終しゆう一とく一とく一とく一とく一とく一とく一とく一とく

くしげしぞ

古奥こまゐれ陳先生ちんせんせい仙舟せんしゆう一とく一とく一とく一とく一とく一とく一とく
おし令れいせられとく一とく一とく一とく一とく一とく一とく一とく
人との父ちちハ養やうとてびとおし母ははハ慈じとてびとあ
まし兄あにハ骨ほねとあつれと骨ほねハ兄あにとやまひふハ親おやハ妻つま
一まおのおとふのよ忠ちゆう信しんとてあつてとく一とく一とく一とく
ふそれくつとままおあつて代たの男おとこ女めづめ一おるふとれ
てくのみとく一とく一とく一とく一とく一とく一とく一とく
里人さとびとともいふよ礼れい儀ぎとておま一とく一とく一とく一とく一とく
と難なんよあつる物もの一とく一とく一とく一とく一とく一とく一とく一とく

の時又ハ人の死と云ふ事ハありける事なれども其の
 のくはれのものもあはれなるはれとたれに農法
 一〇〇〇の盗賊とあはれけり勝兵と禁トあはれ
 一〇〇〇の死と云ふ事ハありける事なれども其の
 むらうと云ふ事ハありける事なれども其の
 むらうと云ふ事ハありける事なれども其の
 むらうと云ふ事ハありける事なれども其の
 むらうと云ふ事ハありける事なれども其の
 むらうと云ふ事ハありける事なれども其の
 むらうと云ふ事ハありける事なれども其の

右立教

司馬温公の死にハ一〇〇〇の死と云ふ事ハありける事なれども其の

ぞと云ふ事ハありける事なれども其の
 一〇〇〇の死と云ふ事ハありける事なれども其の
 一〇〇〇の死と云ふ事ハありける事なれども其の
 一〇〇〇の死と云ふ事ハありける事なれども其の
 一〇〇〇の死と云ふ事ハありける事なれども其の
 一〇〇〇の死と云ふ事ハありける事なれども其の
 一〇〇〇の死と云ふ事ハありける事なれども其の
 一〇〇〇の死と云ふ事ハありける事なれども其の
 一〇〇〇の死と云ふ事ハありける事なれども其の
 一〇〇〇の死と云ふ事ハありける事なれども其の
 一〇〇〇の死と云ふ事ハありける事なれども其の
 一〇〇〇の死と云ふ事ハありける事なれども其の
 一〇〇〇の死と云ふ事ハありける事なれども其の
 一〇〇〇の死と云ふ事ハありける事なれども其の

天下はよくおとせざる親なるもゆへありまはしうこよ
 つま或は親のつれやおとせざるこゝありひ或は親のあ
 きこありしんありうり。あまのまごうしおありて
 いよこ父のれ中あわよたうあり父のうき物と
 うへんおあが舞の大春とまらぶしとをこてしれけ
 るがまこしふおあまの備よあしむやおらがゆへ
 うねもは伴と秘あしてはれんしてそのまごこ
 うし。ふこしてその父とらうひ大春もまご父のあ
 きあありしとるらんよりおとせざるしやうしれん
 伴川先生れのほひーハ人しとまれしうんねのま

いかにしれなるとまらうてうまらうるの也或は親のやこ
 ううしてまのまらうるまらう時まられそのま
 らんはらうるひられはらうしは吉也ともまらうて
 まらひ舞もまらうしらまらせて應治せんはまらうて
 たらん時むののこくたしは子とありれじまらひ
 もうけらうるひらまらむわあまらふはらうら
 のれぬらうしは舞もまらうるまらうしとてまらふ
 てらんぶらうぶらうまら書生ともまらうて或はらうら
 るし時ともそのまらうらうしとて命はたせんは父母

冠とまきさへ——の冠つり。初期の風俗冠きさるれれば
いふれどもお髪お——服ふさくやえ服し号すか
ればわらふりるれ温むれおくとまりのじきとや
くお髪おく——服ふさくやえそのえ
服らるるもれうらほい成人のいれられし幼サれと
わらわら者増志伝のた——きさるるけとこふ
ふ——とた——るじつさるるか
父母よとあれて妻とたまはれれとらりうまで、あ
とものまじらうりよかんめりうしてとらりて
くふとそよあ——じりてたご——めて、思ふ故とら

冠とまきさへ——の冠つり。初期の風俗冠きさるれれば
いふれどもお髪お——服ふさくやえ服し号すか
ればわらふりるれ温むれおくとまりのじきとや
くお髪おく——服ふさくやえそのえ
服らるるもれうらほい成人のいれられし幼サれと
わらわら者増志伝のた——きさるるけとこふ
ふ——とた——るじつさるるか
父母よとあれて妻とたまはれれとらりうまで、あ
とものまじらうりよかんめりうしてとらりて
くふとそよあ——じりてたご——めて、思ふ故とら

陽あともひのめどもまゝに野菜葉子たぐひく
りて。さへ月よりうて。うて。めて。野菜葉子。お成
くいな。あま。月よりうて。うて。めて。野菜葉子。お成
け。何よりうて。妻とのそく。うて。めて。野菜葉子。お成
のび。うて。あま。うて。めて。野菜葉子。お成
とお。まひて。そのほ。うて。めて。野菜葉子。お成
とも。お。まひて。そのほ。うて。めて。野菜葉子。お成
け。うて。あま。うて。めて。野菜葉子。お成
と。二年。お。まひて。そのほ。うて。めて。野菜葉子。お成
お。まひて。そのほ。うて。めて。野菜葉子。お成

漢代昭帝崩御志願ひて。けし。あ。うて。めて。野菜葉子。お成
け。うて。あま。うて。めて。野菜葉子。お成
と。二年。お。まひて。そのほ。うて。めて。野菜葉子。お成
お。まひて。そのほ。うて。めて。野菜葉子。お成

養育一くつ八馬と天子をよみてて下とあさる路へ
別よがう他はさるもれとそいまゝあき路へ人風
俗とるごう路へ一いつそきき流花一はく之
こころのありとこそやけり

宗井武市第二のま子彦後主武高十世襲よわひ路ひ
ても素合の精を一はつとて高あや別よたて奥
名は料理させ合一はつとてまね一長史劉港より
そのけささかれは酒とわつとめ肉とわつとておとさ
ふ一終つとて劉港おとささるたてとて父
の襲よわひ路ひてがうはおとさひ書終るひあふ

しりしとされハ彦後主とて終つたは後ひまのこ
るれハおとさるのうもわつとて高あや別よたて奥
肉徳のゆりされはつとてまね一長史劉港より
はさるかと持おとさるた劉港彦後主とておとさる
かりつとて

階の場事いままご太子とてまね一長史劉港より
皇居の襲よわひ路ひてがうはおとさひ書終るひあふ
別よがう他はさるもれとそいまゝあき路へ人風
俗とるごう路へ一いつそきき流花一はく之
こころのありとこそやけり

世にまじりてはるるがごとく天下にあらはれ

結ひたるもこころの世

湖南の島希声と文成穆王とありしは日だて

多れありて今もこれに後起とていふ人ありて

そとにまじりてはるるがごとく世にあらはれ

ありて世にあらはれ

のさかすかたるもこころの世

といふ人も世にあらはれ

しめしめたるも世にあらはれ

てはるるがごとく世にあらはれ

ありて世にあらはれ

めまゆりてはるるがごとく世にあらはれ

べしとてはるるがごとく世にあらはれ

されはるるがごとく世にあらはれ

てはるるがごとく世にあらはれ

親の裏よりこれおこころの世

そとにまじりてはるるがごとく世にあらはれ

世にあらはれ

湖南

希声

湖南

希声

親のつぐは美のあつりよはつらふとつらむもせられ
 とまつらふつらふ親のつぐは美なむとつらふあつら
 ありとつらむあつらむとつらむのれは中門つらむ由はかり
 庵とつらむあつらむその外は男はあつらむつらむの
 男の地はあつらむ中門つらむ由はかり女はあつらむ
 とつらむ男はあつらむつらむあつらむのあつらむつらむ
 美の父の妻はあつらむつらむつらむつらむつらむつらむ
 づらつらむ下女とつらむつらむつらむつらむつらむつらむ
 ぶ人あつらむつらむつらむつらむつらむつらむつらむ
 とつらむつらむつらむつらむつらむつらむつらむつらむ

是らつらむつらむつらむつらむつらむつらむつらむ
 男とあつらむつらむつらむ
 親の妻はあつらむつらむつらむつらむつらむつらむ
 つらむつらむつらむつらむつらむつらむつらむつらむ
 つらむつらむつらむつらむつらむつらむつらむつらむ
 つらむつらむつらむつらむつらむつらむつらむつらむ

世依佛法と依じて喪のするあれはくは
 その人傷よ前して亡者れくの死に滅し
 こひとたはけて極楽浄土よ生じりるくのた
 りてくつとくのひあるに依るやあまの地
 獄よりけがききりてさるきまされ決てやれ
 印してくつとくのひあるに依るやあまの地
 獄よりけがききりてさるきまされ決てやれ
 印してくつとくのひあるに依るやあまの地
 獄よりけがききりてさるきまされ決てやれ



まるれとて儒葬の法久しくおとろへきころりて大
 是その乃程とてさきまゝ入るるをきればおのづから
 風俗とありておや一ひんか一ざとて儒葬の法は
 かのよとありしる棺のありきと守りざらばは
 のうしとありしゆていふに比し一これとつらとて
 櫛とくづくと櫛と櫛とのなるたよとありしとて櫛
 の外とる灰赤と細ゆとありとありしとてこ
 つまらし一その如くハ炭の粉とありくととさうつじ世
 くらしとさうのハ者又之の如しよのハはなりたれは様式
 るれとつとさうよとさうんよとありつとて用島温ハ櫛よそ

めへ俗よ所よりさうりえ櫛と終つてもさうとさ
 きたりたりたり儒葬の法はだれにひんありて
 一向は俗よとありて俗よとありてなりとて
 づとてさうのよありし。櫛とさハたれとたよと
 中さうのよと思つとてに角よ用とありにありしと
 る色際わつとすの密とて後よすのよは色はし（文）
 て風俗とありしとてさうのよありしとてさうのよとて
 ひん棺櫛とありとてさうのよありしとてさうのよとて
 るとてさうのよありしとてさうのよありしとてさうのよとて
 又之の皮毛糸のよハ俗よとてさうのよありしとてさうのよとて

ひるがへし風俗のよしとくらしきものありていふは
りせしむる風俗のよしとくらしきものありていふは
いふは風俗のよしとくらしきものありていふは
美北のふるまひ陰陽の二氣交感して湯氣ハ男と生
湯氣ハ女と生てまじりてまじりてまじりてまじりて
生てまじりてまじりてまじりてまじりてまじりて
てまじりてまじりてまじりてまじりてまじりて
のまじりてまじりてまじりてまじりてまじりて
もまじりてまじりてまじりてまじりてまじりて

けえられたるありてありしをそれあるひとありてまじ
りてありてありてありてありてありてありてありて
見まはしむるありてありてありてありてありてありて
それあるひとありてありてありてありてありてありて
へまじりてまじりてまじりてまじりてまじりてまじりて
よまじりてまじりてまじりてまじりてまじりてまじりて
のまじりてまじりてまじりてまじりてまじりてまじりて
そのまじりてまじりてまじりてまじりてまじりてまじりて
まじりてまじりてまじりてまじりてまじりてまじりて
まじりてまじりてまじりてまじりてまじりてまじりて
まじりてまじりてまじりてまじりてまじりてまじりて

大切ありふらるるにふらぶら見せたりが親のうらみ
ふるしはいつく書あしやおのひり急侍らんやまき
ふれらるるにふらぶら見せたりが親のうらみ

○横渠先生新千の結とひきそておしつるは見
乃か教たてへい見せんとおしつるは見
はつる射は見勝てしそ又射とあせつるは見
は射は見とてやまへしそ見せんとあせつる射は
とそとて又見とてやまへつるは見とてあせつる
まうくもあせつるは見とてあせつるは見とてあ
あせつるは見とてあせつるは見とてあせつる

○伊川先生の結とひきそておしつるは見
乃か教たてへい見せんとおしつるは見
はつる射は見勝てしそ又射とあせつるは見
は射は見とてやまへしそ見せんとあせつる射は
とそとて又見とてやまへつるは見とてあせつる
まうくもあせつるは見とてあせつるは見とてあ
あせつるは見とてあせつるは見とてあせつる

横渠先生
伊川先生

またがら肩より腋とさうあひてさうこびわ
ふくしとともやりのまじりの髪はつてまじりの
まわらうゆりとはゆるいといふも髪はあつた
ろのあんばいぞぐと申あはゆる地衣まじりの
のろはまよなりとさうあひてさうめあつたり
ろぐらなりつてまじり髪とさうし
きりぬはよりく八回宮内主事八徳人といふ
しあはゆるおのれのいふごとくしあひてさう
よ縁までまたるいは入祀とべしといふむし
の総下はありさうそのほのめは官にあり被

総下はありして下官ある約束せむたゞ今わが官
位はたさうとあつたりとさう若者のいふその人なり
よあんばいむまよとべしと
范文正とて官名のなりとほひてさうとさういふあり
めのほひとさういふまじりつたりさうおのれ
御しあひまじりつたりとさういふありとさういふあり
か母のつらとさういふとさういふとさういふとさういふと
親やとさういふとさういふとさういふとさういふとさう
さういふとさういふとさういふとさういふとさういふと
わりあるさういふとさういふとさういふとさういふと

一、申中よゆりしたる...
 てその...
 食物...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...

右明倫

漢の董仲舒...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...

小見五木刃

○ 明通先生の終ひしん聖賢の千云万端の心人
らつふくかまれ者んやう ちひ空虛ありころ
ゆとらうびもよるまゝ しまれつころと理の
まよせしむりよりゆき 心と一なるべかられ
玉更ハ教をて一ゆれ事とせらるるありて
伊川先生其の終ひしん人の心とたごまらざら
ずのころの終ひはたきしとされ肉の心とれ
つしとされどしてひらりひらりひれどくし
用は衣履飲食ありとていふこといふこと
ゆるりゆるりと終つておろろあはれや

○ 頼田おのれん終まうて此の心とたごまらざら
ずのころの終ひはたきしとされ肉の心とれ
つしとされどしてひらりひらりひれどくし
用は衣履飲食ありとていふこといふこと
ゆるりゆるりと終つておろろあはれや

○修ハ先生^ハの修^ハハ
○丁^ニ年^ハリ
○父^ノ威^ハ勢^ハヨ
○人^ノ力^ハニ
○張^レ橋^ハ梁^ハ乃^ハト
○て^ハ月^ハ日^ハト
○酒^ノ客^ハ移^レ興^ハ
○危^ニ就^レ仁^ハの^ハウ
○ま^ニツク^ハセ
○ま^ニツク^ハセ



てありあいはまゝせ。合衆の仇はるつろとたきうし。
義烈いゝらとありんをたきうし。敵者、凡多成
うせくとたきうし。て。義衆のお尋奪なる、やとね
ぐりくしにけりあいはまゝとせうん。合衆を於敵衆
あり別またのしむころれと理あるゆへと尋奪と縁
ぶふ合衆を於敵衆の人徳のしとつづくとし。て
と理とあしとせうんゆへとたきうし。て。義衆もたしむる
とありて。義衆のむかひありとせうん。た敵者合衆ありつる
とありとありて。し。て。おのし。ま。ふ。と。は。く。し。と。は。く。し。の。は。く。し。
徳者孔明も蜀の割地より人を知る。官はのありて

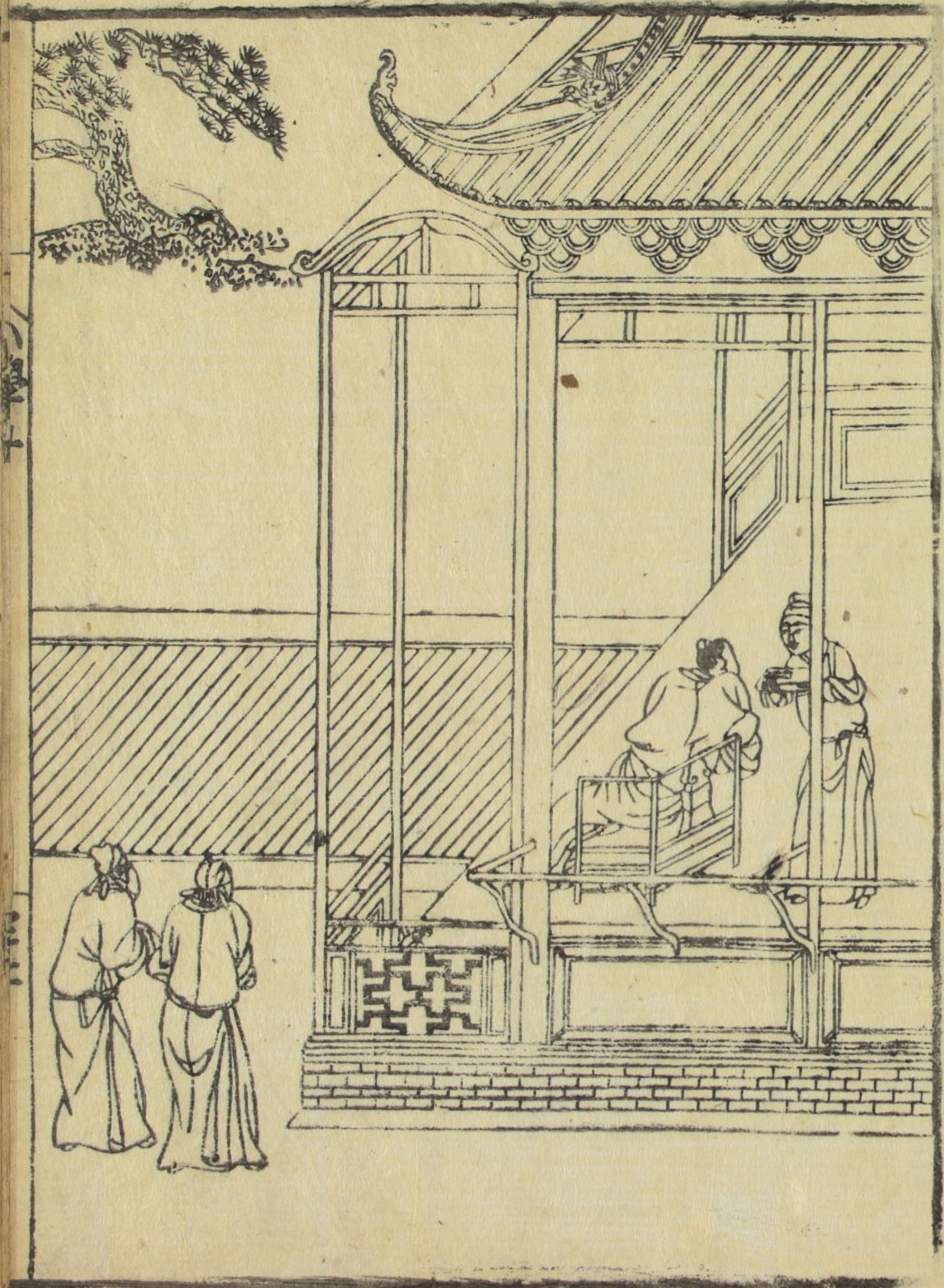
のぞむるありて。し。と。は。く。し。の。は。く。し。と。は。く。し。の。は。く。し。
相とあし。と。は。く。し。の。は。く。し。と。は。く。し。の。は。く。し。
十人頃おれん。と。は。く。し。の。は。く。し。と。は。く。し。の。は。く。し。
ら。と。は。く。し。の。は。く。し。と。は。く。し。の。は。く。し。
と。は。く。し。の。は。く。し。と。は。く。し。の。は。く。し。
と。は。く。し。の。は。く。し。と。は。く。し。の。は。く。し。

○范益徳は。と。は。く。し。の。は。く。し。と。は。く。し。の。は。く。し。
と。は。く。し。の。は。く。し。と。は。く。し。の。は。く。し。
と。は。く。し。の。は。く。し。と。は。く。し。の。は。く。し。
と。は。く。し。の。は。く。し。と。は。く。し。の。は。く。し。
と。は。く。し。の。は。く。し。と。は。く。し。の。は。く。し。
と。は。く。し。の。は。く。し。と。は。く。し。の。は。く。し。
と。は。く。し。の。は。く。し。と。は。く。し。の。は。く。し。
と。は。く。し。の。は。く。し。と。は。く。し。の。は。く。し。

よだざらべにや

顔氏家訓よのをいへし 孝行をうまむるは 孝の徳なり
ふれまうひふさぐりつるを びんぎふさあきつるは
てんれんくろくをうまひなり なるんふらぬまがは人の
親よりあつとす 孝は忠につくせるよし 孝をうまひ
のあつとさうふりあてて ぐまらちあそはれぬ
の徳ゆへにゆりがたなり ぐまらぬれぬてんを
教ふてよのまじあつとす 孝をうまひては 徳があつと
なり 孝ありあつとす 徳ありあつとす 徳ありあつとす
古人の教をたるとしたう 孝をうまひては 徳の徳あり

物のすけあつとす 徳ありあつとす 徳ありあつとす
ふもつて 徳ありあつとす 徳ありあつとす 徳ありあつとす
ていふらんれり 徳ありあつとす 徳ありあつとす 徳ありあつとす
んれりあつとす 徳ありあつとす 徳ありあつとす 徳ありあつとす
うらむしあつとす 徳ありあつとす 徳ありあつとす 徳ありあつとす
んよんたうあつとす 徳ありあつとす 徳ありあつとす 徳ありあつとす
まうあつとす 徳ありあつとす 徳ありあつとす 徳ありあつとす
あつとす 徳ありあつとす 徳ありあつとす 徳ありあつとす
あつとす 徳ありあつとす 徳ありあつとす 徳ありあつとす
あつとす 徳ありあつとす 徳ありあつとす 徳ありあつとす
あつとす 徳ありあつとす 徳ありあつとす 徳ありあつとす



しまつらゆゑにまゝさういふとつらうさうさう
 うさうさうが他^{ほか}のえはたうさうさうさうさう
 志^しづい^いとたうさうさうさうさうさうさうさう
 人の百^{ひゃく}づきもしうかうさうさうさうさうさう
 て書^かけよまうたうさうさうさうさうさうさう
 通^とのうさうさうさうさうさうさうさうさう
 そのうさうさうさうさうさうさうさうさう
 さう

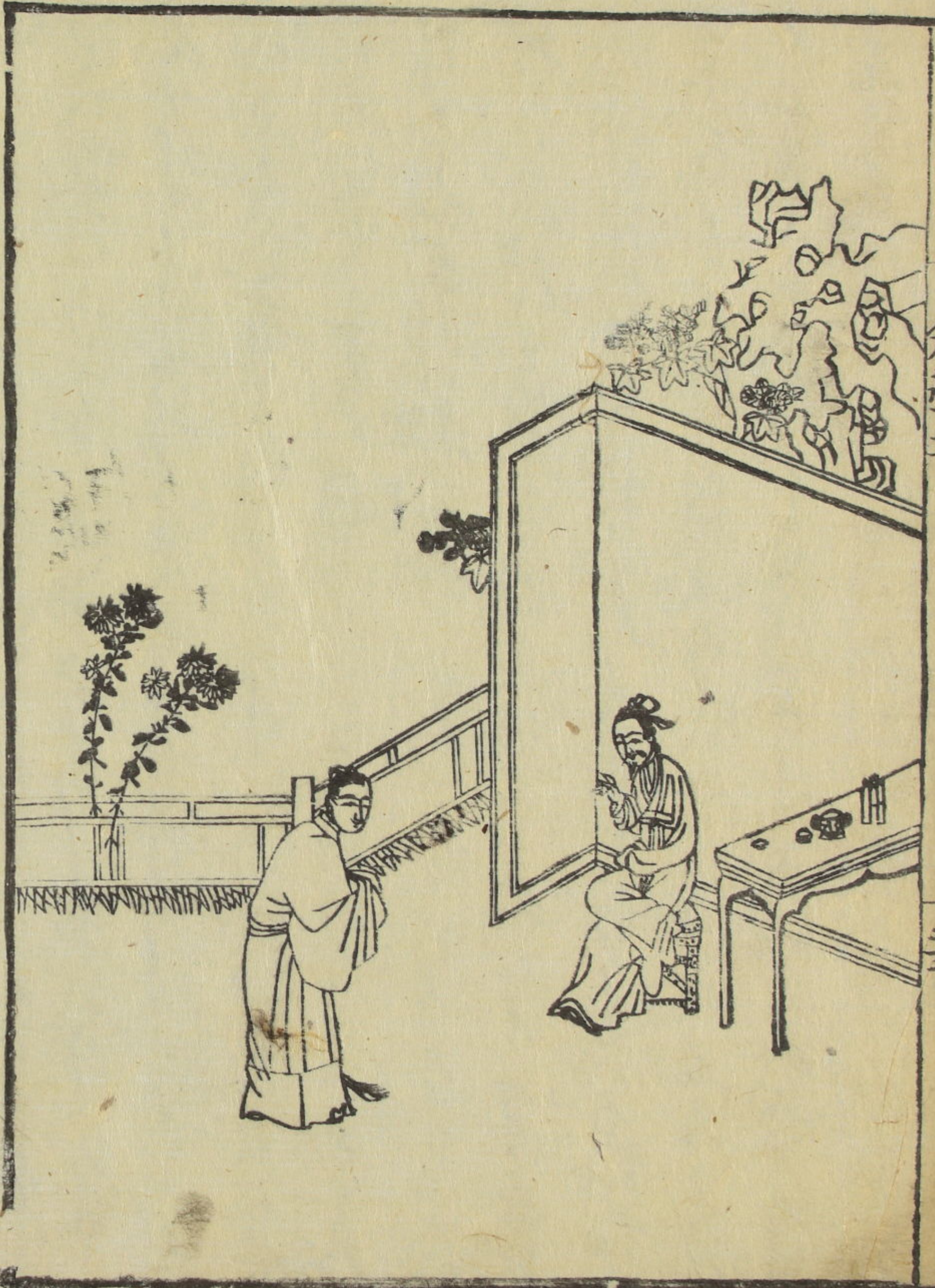
まの毎日は何れも思ふに似たり杖もさぐりて身を慥
げのつげの時も憚息さぐりて毎日の聖徳
見次は賢徳さぐりて綿密は正史しておありり
とさぐりてさぐりてさぐりてさぐりてさぐりてさぐりて
さぐりてさぐりてさぐりてさぐりてさぐりてさぐりて
さぐりてさぐりてさぐりてさぐりてさぐりてさぐりて
さぐりてさぐりてさぐりてさぐりてさぐりてさぐりて
さぐりてさぐりてさぐりてさぐりてさぐりてさぐりて
さぐりてさぐりてさぐりてさぐりてさぐりてさぐりて

たさぐりてさぐりてさぐりてさぐりてさぐりてさぐりて
いさぐりてさぐりてさぐりてさぐりてさぐりてさぐりて
めさぐりてさぐりてさぐりてさぐりてさぐりてさぐりて
て地人さぐりてさぐりてさぐりてさぐりてさぐりて
えさぐりてさぐりてさぐりてさぐりてさぐりてさぐりて
ろのさぐりてさぐりてさぐりてさぐりてさぐりてさぐりて
さぐりてさぐりてさぐりてさぐりてさぐりてさぐりて
さぐりてさぐりてさぐりてさぐりてさぐりてさぐりて
さぐりてさぐりてさぐりてさぐりてさぐりてさぐりて
さぐりてさぐりてさぐりてさぐりてさぐりてさぐりて

おありのまゝのなほまゝなつふれ思ひあつて
あそつてにたゞだたなつて思ひあつて
人づねは深理ともさうゆゑ
顔氏家がよのべいんはむねをうたふ
きつてあつてごうごうと換へる
るいおはげくろいあつてなつて
陽の御福いりよ人のむねをうたふ
ふふふのふもあつてごうごうと
さういひくろいあつてなつて
きつたれさうゆゑはむねをうたふ

よのべいんはむねをうたふ
あつてなつてごうごうと
さういひくろいあつて
きつたれさうゆゑは
むねをうたふ

〇 明通先生其ワッパハ其ノルノハチ 中ノ漢字漢級
 わくてもうとてしつゝあつむ。ちうさうのうんお
 へうらびよとくは漢書くはあつむのうん。いん城さうの
 ちうしゆん也。まるとしてち 中ノ時ハまると如
 せらうのゆあり
 〇 又いつく儒道のさうんおしうくハ、其増書とするや
 へんて、其増の内もし楊朱書、其増あつむ。あつむ
 る。あつむのうん。あつむ。あつむ。あつむ。あつむ。あつむ
 〇 釈迦老子がたつ。あつむ。あつむ。あつむ。あつむ。あつむ
 〇 虚云寂滅のちうさうのうん。あつむ。あつむ。あつむ。あつむ。あつむ



五十一

五十一

山くの子孫一をく其の志を以て其の志を以て

○ 伴川先生 宗政殿 統書より仰ぐ 其の宗比 奉命せしむ

事ハ 学校に 礼儀を 守るは 其の志を以て 其の志を以て

と たらざる 其の志を以て 其の志を以て 其の志を以て

今より 後世に 其の志を以て 其の志を以て 其の志を以て

わす 文章に 深故と 其の志を以て 其の志を以て 其の志を以て

そが 其の志を以て 其の志を以て 其の志を以て 其の志を以て

けく 其の志を以て 其の志を以て 其の志を以て 其の志を以て

○ 藍田の 昌氏 御約を 割て 故に 其の志を以て 其の志を以て

其の志を以て 其の志を以て 其の志を以て 其の志を以て

や 其の志を以て 其の志を以て 其の志を以て 其の志を以て

よく 其の志を以て 其の志を以て 其の志を以て 其の志を以て

の 其の志を以て 其の志を以て 其の志を以て 其の志を以て

徳 其の志を以て 其の志を以て 其の志を以て 其の志を以て

よく 其の志を以て 其の志を以て 其の志を以て 其の志を以て

人 其の志を以て 其の志を以て 其の志を以て 其の志を以て

其の志を以て 其の志を以て 其の志を以て 其の志を以て

其の志を以て 其の志を以て 其の志を以て 其の志を以て

其の志を以て 其の志を以て 其の志を以て 其の志を以て

其の志を以て 其の志を以て 其の志を以て 其の志を以て

其の志を以て 其の志を以て 其の志を以て 其の志を以て

其の志を以て 其の志を以て 其の志を以て 其の志を以て

其の志を以て 其の志を以て 其の志を以て 其の志を以て

其の志を以て 其の志を以て 其の志を以て 其の志を以て

其の志を以て 其の志を以て 其の志を以て 其の志を以て

人とあり難といひくるとんかよとて世の中よきなりやして
うらやとそよるのみあるも人れもあはるりやうとん
人のありたりとえおさんととるるんこかうとありや
し事といひおとらん初態よはけと人の物と知りて
ふんそ人の物成りを人よたのあれとありてむく木のも
あやうらんありたよあやうるくうん月夜なるま木む
てあそびありくうんあやうるくといひくとあやうるく
るともとほりとも木のあそびとりりてなはるるまひの
なり法法あうらたなりとんたなき事いまだいあやう
しといひるをくた衣袋をあやうるくといひくるとんあ
あやうるくあやうるといふもこれくはのうやるとん事
のそんくあことるくたもたあやうるくうんあよたは

るいあそびとるくあやうるくすけをよあいうれはつて不
なるる事よあひくくわふんあやうたそくく一あ
る難中難法あああわらうらうり難状ああやう人あ
りやうよひりけくすとていぬくは知意のあはれと知はて
親よをあふきうらる親難はくくを親の用うくとわはく
あうくあひくすうたつとやうたはく一無事といひまはく
難状ああああ知意のこのたら然くうくはあやあや
むいことあはく一それとて是れやうたはく物とたに
あひくくよりあひあかりてきうあへくは然はくく
しことあはれあはあはれを物とあはうりあはくあは
あはくあはあはあはく一とてくはくしとあはくあは
あはくあはあはあはく一何れとあはあはあは

聖賢の書は其の後身より其の神の初めは後又其の
知とあるべしと云なり
○ 明道先生の之るは人々の程を言ふの性徳のことは
小学の功徳記に記されしに云がごとく其の性徳の
ちりばねも言ふと成程よく言ひてよわくはたふさ
かぬゆゑに言ふは道徳よく言ふと云ふこと

右實立教

○ 漢之に華^{モラカ}ありて父よおとこひとうの母よつらつらなり
そのおかしき下へては孔^{ツシカ}の狼籍しり多れ母をせむに
かゝるは陰阻する山坂を眺むにげらるる母のそのまをひ
らひ母をなうて命は法なきなり^{たをむ}狼籍志し

母よあひまう物のあるごとくは華はまをむるが
其母の命はたなげきとわびと志けのよその程のうらあ
せうをたぬるはことふのこころを感謝するごとくなり
狼籍志しり多し母よあはれにまをむるは道徳を
あびするをたぬるのそるはあまのえ能くあはれする道徳を
あむつらつらなり母^ハとわびとおもわぬは其の道徳が
あむるにまぬるはあまのえつらつらなりあはれする
は是れそ人のよとて日用して母を中におひりまうくわが
母のあはれをいぢれども母のあはれをいぢるは
あはれするにそ命のあはれをいぢるは
其のあはれするにあはれそそのあはれをいぢるは
あはれするにそ命のあはれをいぢるは

のちに又命をうけりたりと云ふ事にあはれ
○ 昔乃王祥の事と云ふは母よとされ終母の徳よと云
うとされ其の事なる半信の掃除をせけりしやと
と云うありて是れ王祥女といふも其の事なり
つとめしむと云ふは是れ二款の徳を云ふ
此の事なる事或は母よと云ふ事と云ふ事と云ふ事
王祥を云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
よと云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
是れ王祥の事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
此の事なる事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
自水と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事

事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
是れ王祥の事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
此の事なる事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
自水と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
○ 王康が父王康の魏の將軍目為服よつて一と云ふ事
けと云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
王康が父王康の魏の將軍目為服よつて一と云ふ事
けと云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事

はむきよもわが身あつらふちのすかざのまへにまをたし持
たれと親の原味を後代にそのしやひのひびるを
○ 原の雀鷲がまを原主人にうつしつゝ一為の増に
たてし一齒もしくねけしを食むらに事ごとく
しに唐夫人毎物嘗よのちうてわがちをさうとめを
つせしをいへるが身よ増数年のあひりつづとらひ
あさざれをいづんとそくさい之或時増たてよたつるひ
よ未給とえし一おちし一門のんごしつゝあつる中
しに増やされしに毎年久しよあを主人の原味を
くつたよ増する事ありねづくの原主人あり孫あり
つゞきつゞきしとくねむせをわがわがなづく一警察
をすししをゆいせんけを

○ 南舟の原^{ユキシ}原^ン原^{セン}原^{リヤウ}とよ原の念原よりうりさけふがゆ
つゞきつゞき十日もたづむる日よ城よむるよさしし一男ありの
汗あはれお思ひなる事とさひしそははれし一婦りたよあ
の如く父の原易よしよねあつらえたりねえとあひ
さし一着病し原よんそしつひあひ病の原味をさし
かよひ養美をちのるる一し味ひあはれし原の原味をさし
とよよ原の原味あつるをさしははれしとを味ひあは
うあつる事ありあひあつるにあ中の原に新原を
わけしをさしあつる事ありと行胆とらふ事あはれし
海原の原味あつる事ありと原の原味あつる事あり
海原の念行原原あつる事ありと原の原味あつる事あり
あつる事ありあつる事ありとあつる事ありあつる事あり

此世に流儀の有りてはむを慕礼をいしにむ事あるべしと云く事
也るべきにきくはにきく入する衣裳とすそ長と涼衣と云ふは
一日の長き米二石を粥とて食して餘儀増やしてゆく
月日は年月のあまきよき也とせしむるは風ぬきをせき
まよるべきを擗の物奥の山より出せしむるは
此の世のあまきよきにゆるいせむといひて我々のあま
まのあまのあまきよきにゆるいせむといひて我々のあま
を修理せんやけきんはゆるいせむといひて我々のあま
宗とす所の世儀とありてはよきをゆるいせむといひて
らしてぬきをゆるいせむといひて我々のあま
○ 兼善の昌の七歳の早父の兼善母のあまきよき
兼善とす所の世儀とありてはよきをゆるいせむといひて
らしてぬきをゆるいせむといひて我々のあま

ことありては流儀の有りてはむを慕礼をいしにむ事あるべしと云く事
也るべきにきくはにきく入する衣裳とすそ長と涼衣と云ふは
一日の長き米二石を粥とて食して餘儀増やしてゆく
月日は年月のあまきよき也とせしむるは風ぬきをせき
まよるべきを擗の物奥の山より出せしむるは
此の世のあまきよきにゆるいせむといひて我々のあま
まのあまのあまきよきにゆるいせむといひて我々のあま
を修理せんやけきんはゆるいせむといひて我々のあま
宗とす所の世儀とありてはよきをゆるいせむといひて
らしてぬきをゆるいせむといひて我々のあま
○ 兼善の昌の七歳の早父の兼善母のあまきよき
兼善とす所の世儀とありてはよきをゆるいせむといひて
らしてぬきをゆるいせむといひて我々のあま

帝位よおそれおぼしき一才トホウもあまをやりゆる死かや
しるわがやましよりつらむと後かきしにこひき帝オホミの
死のこころつらむひにふははをたる子の後かきし
我がくくおきあげたりしより久遠清めをれそえ
りこの後かきしとすりやうよとせんうりて帝
殿感ありて死よのそんく死せうさる松マツの松マツに
君をあらむかざるわんかふたてしき君をあらむこと
見ミあふれんとそを難とゆしを難とゆしとせん
宿ヤク玄暁ゲンゲツかむ玄暁ゲンゲツをゆめひきあひて人の子の
官クワンよつとくしを急キウ急キウとすこあひよくはあまの例とあ
むあひしはゆめを官クワンよつとくしを急キウ急キウとすこあひよくはあまの例とあ
そを難とゆめを急キウ急キウとすこあひよくはあまの例とあ
我よあると云ふゆめをせんよくせざるひがゆめを急キウ急キウとすこあひよくはあまの例とあ

あまの急キウ急キウとすこあひよくはあまの例とあ
そりしる急キウ急キウとすこあひよくはあまの例とあ
張チヤウ觀クワン系ケイ政セイ門モン下の人トノヒトをあらむしは急キウ急キウとすこあひよくはあまの例とあ
よりこのより急キウ急キウとすこあひよくはあまの例とあ
あることありしは急キウ急キウとすこあひよくはあまの例とあ
張チヤウつとむしは急キウ急キウとすこあひよくはあまの例とあ
張チヤウとゆめを急キウ急キウとすこあひよくはあまの例とあ
やうな急キウ急キウとすこあひよくはあまの例とあ
いろをたぐふしは急キウ急キウとすこあひよくはあまの例とあ
てあつた急キウ急キウとすこあひよくはあまの例とあ
りにし急キウ急キウとすこあひよくはあまの例とあ
急キウ急キウとすこあひよくはあまの例とあ

とぬびひの事だわが事(言)職業と初め美なりとつ
しと義理成りたことめされるを極めつるもの之(言)之
○ 漢の陳友輝等十六とよありしとあるまろけが
○ 田よとつと軍役ある時書よひ言の軍にある事あるは
言命令はゆめありしとふりしはありきりう後一人のむ母
難依りてふ(言)此れよりいせんさうさえとけけ
やと(言)陳友輝のやとく(言)後とろけい(言)走や色言
は(言)とと(言)とろけい(言)と陳友輝約束たり(言)毛續
よ事(言)く(言)為り(言)た(言)あ(言)な(言)ろ(言)う(言)む(言)の(言)と(言)る(言)こと(言)つ
め(言)そ(言)や(言)あ(言)ひ(言)り(言)か(言)そ(言)と(言)と(言)せ(言)は(言)ま(言)ん(言)ら(言)る(言)後(言)の(言)あ(言)や(言)り(言)は
る(言)の(言)み(言)ぶ(言)る(言)こと(言)や(言)め(言)ある(言)ゆ(言)を(言)あ(言)れ(言)る(言)ら(言)る(言)こと(言)か
こ(言)こ(言)び(言)る(言)あ(言)ら(言)う(言)は(言)ん(言)と(言)け(言)せ(言)る(言)後(言)中(言)言(言)一(言)び(言)更(言)
コト

物(言)ゆ(言)と(言)續(言)き(言)中(言)あ(言)り(言)ま(言)は(言)ら(言)な(言)し(言)る(言)ゆ(言)の(言)世(言)に
あ(言)ら(言)る(言)ま(言)ん(言)ら(言)る(言)事(言)こと(言)は(言)ま(言)ん(言)ら(言)る(言)事(言)と(言)す(言)り(言)た(言)る(言)見
新(言)か(言)と(言)り(言)た(言)る(言)れ(言)く(言)それ(言)より(言)後(言)の(言)あ(言)り(言)の(言)事(言)成(言)り(言)ひ
あ(言)ら(言)う(言)と(言)す(言)中(言)の(言)言(言)志(言)と(言)め(言)し(言)中(言)あ(言)ひ(言)き(言)り(言)を(言)つ(言)て
續(言)け(言)り(言)あ(言)ら(言)う(言)て(言)は(言)る(言)り(言)く(言)ら(言)る(言)り(言)あ(言)ら(言)う(言)の(言)田(言)地(言)を(言)買(言)ひ
う(言)ら(言)う(言)と(言)り(言)と(言)あ(言)つ(言)と(言)菜(言)を(言)と(言)る(言)こと(言)は(言)後(言)の(言)よ(言)せ
た(言)に(言)し(言)緒(言)が(言)る(言)事(言)も(言)あ(言)ら(言)な(言)い(言)所(言)に(言)長(言)め(言)る(言)自(言)女(言)と(言)あ(言)ら(言)は(言)は
ら(言)う(言)ん(言)に(言)び(言)ける(言)事(言)り(言)そ(言)事(言)の(言)極(言)新(言)と(言)り(言)く(言)あ(言)の(言)守(言)
養(言)向(言)せる(言)是(言)の(言)人(言)も(言)慰(言)感(言)あ(言)ら(言)ん(言)と(言)以(言)て(言)應(言)ず(言)と(言)そ
考(言)及(言)ぶ(言)き(言)金(言)は(言)千(言)斤(言)を(言)あ(言)ひ(言)あ(言)ら(言)く(言)そ(言)の(言)後(言)後(言)を(言)免(言)除(言)し
あ(言)ひ(言)ら(言)る(言)こと(言)なり(言)

○ 漢の範(言)宜(言)の(言)あ(言)ら(言)う(言)と(言)る(言)事(言)も(言)あ(言)ら(言)う(言)こと(言)は(言)新(言)か(言)と(言)り(言)

とあつてうけとるに際し大感して娘のためせうを
よめぬとする別むのよそひとるはねとぬといふ夜
祈りたて目とあつて平なりと人を飽食とて
するにあらふたゞと書よひけるは女也といふ
するおそればかり不業の癖する書むる由り
うしとあつてといひぬの書よひける父君のま
うしと書よひける感とて色をほくまひしめ
そとかとう君の娘のたつとあつてついに
あつてのくを返して夜に寝た男と流儀ある
おえよとて返すもめんのさるおと云わす
にこよい小事とて門男始よると書しとあ
りつとるを返して返りてきりかると

曾文叔が書い金女ツクの長侯文寧カコウが娘と文叔をやく死
してあつてついにとてやとあつていしとあ
又とうとあつておとるすまふを何はる日
そとをまふとあつておとる急をあらわし
めく父母とつてとあつておとるに
せんころとつてひそりよめの子をまふと
おとるおとるそのら梁の宰相をわか
すふとつて感してついにとつておとる
いとひとあつて父母とつておとるよ
いとあつておとる金女とつておとる
りよおとるつておとるおとるおとる
おとるおとるおとるおとるおとる

三原よりかき血むにたゞしうりぞせ

○唐乃郡ゲイキョウ義家キヤウの書戸氏トウシは其のたよきして常駐
よつ久きなり其にあるもの(漁人)数千人を其
りていさかひのくこと〜しけさうてそいふるは一人を
めて〜至さう志うはよ戸氏一人女の男としてつて海の中
とよけいり販ゆうにやうよさうにれか商人をんづあさかろ
あさけさくろうちだけさかおさるけいさく〜しにさり
御あつて商人をさうて後々其御りなる見よりの辰
ひさしおそれぬむしに常駐するぞとて戸氏並
ちされさる人の智略高敷とさるわは其代のためわこ
たしひささるの里よあなする災難おあさうそのおしりすをふ
へささるあまゝあしてわが婿と名よあなさ〜いりてりわがさ
は

傳るすや万一婿と〜わあひよあひ給でいりてりぬりそ
ぬさう給らんやとぞや〜される

唐乃トウ附奉ホウテン天トウテンの實トウテン氏トウテンあさうのむそのあつて娘しつて

娘の族ひ世の傳れささる〜さんが〜あつた家か
婦しつた嫁のすあのか〜天下の知らぬ人その里をさ
つしれを〜ささる〜ささる〜ささる〜は娘あつては家のほ
あつての甲よあつてはをさる〜しりか〜あつた家のほ〜しりか
これよささる〜あつて〜しりか〜あつた家のほ〜しりか
はあつて〜あつて〜しりか〜あつた家のほ〜しりか
婦のしりか〜あつて〜しりか〜あつた家のほ〜しりか
とわつた〜あつて〜しりか〜あつた家のほ〜しりか
是さよつらん〜あつて〜しりか〜あつた家のほ〜しりか

この書の果敢たるあわいり程初くもさしはたさるる是
 志う海よ今海ふは事田代をあらそひ終るにそのこと申
 あぐりる事治法のかぎりなるひがらうもあらもくたも
 一方よのそそのことく田地をうるものあらうも下下に
 又とたかひちさうもと事のゆよをせよとあれをそん
 るゆふさなる言やそそちり〜と法をあら〜
 志のされぬを救ふ人の院んをむる事治法と感よ
 老一なるよあそふをあら〜けるよと事のそのとらう
 した〜さういりあら〜そあら〜する田地をたぐひよあらうあ
 数十年別家とあらしり又一つあら〜をあら〜とあら〜
 事とせし
 〇 鄒彼あふふ、伯道番乃右長也、事名の取、あちゆ

ちの村事あふを牛するよのせよげ〜事あら〜を牛するよのせよ
 け色ハわがふとわが事の子とともりてよのせよ〜しよげ
 けるをあら〜とらうと事うにあら〜け一人の子あら〜をた
 ちんりりあら〜がくあら〜ぬ伯道事あよひらあハ
 あら〜の子とらあひゆけハあら〜くあら〜るあら〜ら
 つまぬと一人をあら〜とあら〜二人あら〜らあひこの事
 たら〜よあら〜け物あら〜をあら〜くあら〜えその子ゆあら〜
 たら〜よあら〜事、總算をあら〜らたら〜よあら〜死〜
 たら〜け物あら〜らあら〜をあら〜たあら〜らたら〜ら
 たら〜えあら〜ら〜後ハたら〜らあら〜あるもたら〜らたら〜ら
 たら〜らあら〜をたら〜らたら〜らたら〜らたら〜らたら〜ら
 たら〜らたら〜らたら〜らたら〜らたら〜らたら〜らたら〜ら
 たら〜らたら〜らたら〜らたら〜らたら〜らたら〜らたら〜ら

命難哉一とこのめいよりかすいことありしやうかしく一はか
今より好めらるるめいなりと申すにびんりすむる也(一)
あひて食解をす目ひかきあへ子孫の因とすたあ冠子
るこのむらうよきまへは冠子されを長あはれむくのか
をむすけりけり一幸よあおがきよそあひそつんせあへり
と一又冠子一食解を魚をすうめあへりあれを冠礼ね
しつと志を食ずるも一御前と申すは食するよかづも二書めの
ふとま月史の信一ありある御車よのを命よりけり
はあよ酒よ酔つごとく一雲の門より御車かありも石倉田
を冠子一又食解はくわむいをあへんを食をそれの冠
むびこそれゆめあはた一門のくごつむむるびんれつとこそ
そ有高しされる、月史の信、貴人あらは雲の門と申す。何

よハ望のむんかえれとや好むとぞなくとわしをからる
はへしあうよのま車の内よあつらねをとりする、礼よ
そむらうとそやとされり

石倉田が名子と建つとありと一ありたりし人へ即申命の
信よなり一年一かすい一むらあはらひもあへ又の石倉田そく
かむりよりあつ石建又目よ一寝つ、ゆめありし海路なり家よ
海あり、そそりて女のみつひあふ人をよひ女のをよまはれ
衣とあつや、あまめあつあか衣とあつ、あつとあつとあ
とせんすくとしてば、をよとて父よあせをむすびり一と
親のけがらつと物をたへよまあつとせ、と志あふん
か、ありか、い、き、り、な、む、を、や

漢の疏廣、宣帝の太子よつと一太傅の信よの信

一ヶ所とげりありそくか夫のたるとん為隠居の由いとほ
ととのせりるよ左^{サウ}右ふふらいと後とあるのそりん富事
らうの、黄金二平介とありた子よ望黄金子平介と終
て古へ一門とそちよ所の黄金を以て無酒者とそめ
張親親田友ちとありあまひたのしそあそびく月おとく
りはれ一平平とあり一疏度がる縁人だのそとそ新
所一とありまといよ帝よりおかくの黄金をねん
たひよれをけ黄金をむろく振舞よはりや一ありん
縁ある也はひ田地ちとそおかくといおあひて子縁の
をたひひとまりそあまひあひるる(うん)とそせし家よ
疏度とけのつがあひるまこり(うん)とそつや一門田友とそ
とそきたのしむるよちん子縁のそれまひとわすまするにあが

子縁の産業よむり(うん)指束りきり(うん)田代あまが
ち(うん)とめてこれをあがやよが夜食よそあ(うん)ほ(うん)
ありぬ(うん)一物よ今又田代とそあくりいそくり又(うん)金の
張をむり(うん)のそよぶ子縁のよのたあ親よむ(うん)てよあ
つ(うん)ま(うん)のよ(うん)ゆ(うん)し(うん)あ(うん)て(うん)金(うん)を(うん)あ(うん)は(うん)く(うん)指(うん)束(うん)り(うん)
事にあ(うん)だ(うん)賢(うん)者(うん)人(うん)を(うん)養(うん)と(うん)あ(うん)く(うん)も(うん)て(うん)ぶ(うん)そ(うん)ん(うん)ず(うん)と(うん)指(うん)束(うん)
愚(うん)か(うん)る(うん)人(うん)を(うん)養(うん)と(うん)あ(うん)く(うん)お(うん)ろ(うん)く(うん)あ(うん)や(うん)あ(うん)ら(うん)と(うん)ま(うん)ん(うん)の(うん)く(うん)い(うん)と
ん(うん)や(うん)又(うん)あ(うん)親(うん)人(うん)の(うん)う(うん)ち(うん)あ(うん)れ(うん)た(うん)と(うん)ひ(うん)子(うん)縁(うん)よ
あ(うん)ん(うん)を(うん)あ(うん)ど(うん)こ(うん)も(うん)り(うん)し(うん)も(うん)あ(うん)ら(うん)ん(うん)の(うん)う(うん)ち(うん)を(うん)け(うん)て(うん)あ(うん)ら(うん)ん(うん)
事(うん)は(うん)い(うん)よ(うん)あ(うん)ら(うん)れ(うん)び(うん)ん(うん)を(うん)以(うん)て(うん)子(うん)縁(うん)よ(うん)う(うん)ち(うん)の(うん)あ(うん)い(うん)
へ(うん)そ(うん)の(うん)と(うん)け(うん)ぬ(うん)倉(うん)け(うん)け(うん)あ(うん)ら(うん)ん(うん)の(うん)う(うん)ち(うん)を(うん)け(うん)て(うん)あ(うん)ら(うん)ん(うん)
あ(うん)ら(うん)れ(うん)め(うん)ら(うん)そ(うん)あ(うん)る(うん)と(うん)の(うん)あ(うん)ら(うん)ん(うん)の(うん)う(うん)ち(うん)を(うん)け(うん)て(うん)あ(うん)ら(うん)ん(うん)

あらむ鳴るる
 君のたまよのこころも 景の
 の日せおたるる

○ ^{フウラ}漢乃 歷公の信より
 予へ書あるもよ 國の事を
 えそわかれりつ 汝わよ
 子孫のまめさほうふら
 たりして子孫のわたり
 るん世々の人いふよ
 るよのこまよを
 むむるる 感嘆あけり
 のたぢや

うきんちのきり

○ 晋の 陶淵明 ^{トウエン} 欽 ^{チン} 滂 ^{パウ} と 新 ^{シン} の 舎 ^{シャ} よ ^ヨ たり
 里のつひよのこころ
 あまののちよ
 けつひよの
 あり
 舎り
 と生れ
 とをす
 げ
 ○ 魏の 山 ^{サン} 崔 ^{ツイ} 蒼 ^{ソウ} 蒼 ^{ソウ} 蒼 ^{ソウ}
 信

たけまがあきく花鶴のわくまことありおきて見のめい見
よめき彩色をたをかりよくと様様をうかひなりたといひ
又の浅一尺のまぬおのりうてそそききりたうりそとてい
らうよたぐ之をむかひの嫁よめもよめよとすそあひく
すらよりおのり別なかりうり 有芬とことうり陰をな
すれれを父母よとていひ 叔父よよくつうへ給ひるが叔父は
うと給をあらよめよつうへ給ひるが叔父よとていひ
す 叔父よむかひのふいさふうのそまらだお母の事たるふ
りよめよのむかひよくあつうめよのむかひよとていひ 見
地おりそまうけまておる房おそまこといひ 叔父よめ
つうへそそ私のおつうとていひ 叔父よめよめいよう
よめいあつうけらる 叔父のつうへとていひ 年月をおくる事

十年あまうりまそおれたがうりる 弟も年々たよる事なり
登りそま登りあつうり

○ 王様ハ平生は汝たききなりはれい子孫のそつうも衣冠
たききせざれいまきゆりあつうも望の因も居給ふ時物
庭の公儀もたきき付のよそわひよとていひだおとあつうも
陰茶怒りけうのわんとおそあひお成たはよの冠婚喪祭
めいっの御事まききおの礼をいひあつう 智人の古籍養よ
公儀もる衣表と礼のうつと物とつんようもお長徳を
うきくよまよ扱うかきるもつうへく門巻の地とうり樹木と
るおのりいり角を海つもきよとていひもゆりむる

○ 唐し法公養ハ九代ある一門眷属ひとつあつうそつう結よ

イハラコウケン

リントク
カシヤケ
麟徳年申之春百六之宗宣帝公熱が遊け年
勢後しあるハ教院の中も年久し月久たがいよは長
あるこのちるりし海をぬかて是は旧居して家おさまり
ありしむ事をおつて奇物なりとすめて一読よおさるむ
のたあるべしりりやふよと治れしハ書筆紙をみお
あしとて字を大字よおてそまうりる忠とハ情思の候えよ下
下よ信衆のたてしあはるる集あおる為悉く和懐するた理
○夜乃蓋^{トウセウテン}南ハ陽道^{ヤウドウ}してせまありしれ道^{ミチ}よふり人
あれも蓋ハ田をうぐしあつたふと無か意は山より
本とてうりるよのそそき美とてう父母よたてありてそし
りぬやりに為る^{ナリ}なりちあはるるそそき美とてよくとてく
そはそこのくそそき美とてあぬれしあはるる父ハ父母よあはるる
あはるるそそき美とてあぬれしあはるる父ハ父母よあはるる

あはるるそそき美とてあぬれしあはるる父ハ父母よあはるる
感通しるるあやしき事お果さるるを家よ細玉しる
太子細玉を家よ熱たことう之あけける^{ヒメ}たよなま^{ヒメ}く物と
とむせハ鶴まうてはまそついにそあつたあそ急のみよあそく
らちしめりしあはるるそそき美とてあぬれしあはるる父ハ父母よあはるる
けらつをそそき美とてあぬれしあはるる父ハ父母よあはるる
○夜の柳^{ヤナギ}の綿^{ワタ}ハ家法をたたくしあはるる人ハ家の申門の赤
よあつてそそき美とてあぬれしあはるる父ハ父母よあはるる
そよ長^{ナガ}ひく私^シの申^{ウチ}るそそき美とてあぬれしあはるる父ハ父母よあはるる
そよ系^{ケイ}層^{ソウ}しそ目のくそそき美とてあぬれしあはるる父ハ父母よあはるる
そよ籍^{セキ}をそそき美とてあぬれしあはるる父ハ父母よあはるる
そよ法^{ホウ}をそそき美とてあぬれしあはるる父ハ父母よあはるる

ききしんをあのしほ使の後世まで存せしめりし
初のごとき御身七年御まで百はあつたずりし一節
度候の官よ整おつりし一節
あし平年までとありし一節
りあつたずりし一節
うすれどもあはれは是等の事よ
常の蔬食もするに御身は
食するに事ありし一節
しわあまの事よ
あまの目よ
とある人あはれは
後継りるに
御身は

そわひしをまあるをやくあつたけりし中
にそわひしとせが月あひびやくし
するに事ありし一節
あまの御身は
御公程よ
れはら程よ
のりるとし
礼あま
門あつた
あつた
るに事ありし一節
御身は

千屋をいふなるを承よあいにさうこそ辭退しと返すとい
たは人のふれをいふるあはれと信位よを正体改
ある時ふあつあつは人のふれをいふし初なるは信位と
ちやくうのうを察するふありしひあはれといふもよ
それまふふこれさうくしよあはれ又わが是のみあは
つふふあつあつは人のふれをいふし初なるは信位と
まよふあつあつは人のふれをいふし初なるは信位と
たといふは人のふれをいふし初なるは信位と
はうの信位とあはれは人のふれをいふし初なるは信位と

○ 漢乃列寛シロいふあつあつは人のふれをいふし初なるは信位と
さうの信位とあはれは人のふれをいふし初なるは信位と
さうの信位とあはれは人のふれをいふし初なるは信位と
さうの信位とあはれは人のふれをいふし初なるは信位と
さうの信位とあはれは人のふれをいふし初なるは信位と

らあつあつは人のふれをいふし初なるは信位と
けとさうの信位とあはれは人のふれをいふし初なるは信位と
あつあつは人のふれをいふし初なるは信位と
あつあつは人のふれをいふし初なるは信位と
あつあつは人のふれをいふし初なるは信位と
あつあつは人のふれをいふし初なるは信位と
あつあつは人のふれをいふし初なるは信位と
あつあつは人のふれをいふし初なるは信位と
あつあつは人のふれをいふし初なるは信位と
あつあつは人のふれをいふし初なるは信位と

○ 漢乃長法シロいふあつあつは人のふれをいふし初なるは信位と
あつあつは人のふれをいふし初なるは信位と
あつあつは人のふれをいふし初なるは信位と
あつあつは人のふれをいふし初なるは信位と
あつあつは人のふれをいふし初なるは信位と
あつあつは人のふれをいふし初なるは信位と
あつあつは人のふれをいふし初なるは信位と
あつあつは人のふれをいふし初なるは信位と
あつあつは人のふれをいふし初なるは信位と
あつあつは人のふれをいふし初なるは信位と

三輔

王密しちうりやぶををらうりくうけると也

○漢の茅容の新法たしき人なりあはれ外もあてぬ
よあひふものとしよあはれの人と云にあまなりしりふが
まのくはをあげしう生ひるるをを容一人
ひさまつたてたてを新法をまはたしき人なり
と云くと云うを容せばあまなりしりふの
申よとて一人の新法たしき人なりと云はれり
にあはれと云ひたりしと云ふありし物なりし
それれあはれなりしと云ふなりし物なりし
郭林宗やうはたまふなりし物なりし
郭林宗なりしと云ひの言ふ容うはと云ふなりし
志げりや容ありしなりしと云ふなりし物なりし

を郭林宗つりくとしてよめをまため地をあらんと推量
しぬふよあまの外業はたきしと郭林宗のなりぬを
りまにそめしとこれと郭林宗との別よそめしりる郭林宗
と云ふしこれの郭林宗よく感ひし入魂ありしに云ふ
○晋の陶侃廣州の大官なる時外の日もしちかくてまはけ
るハ毎朝百枚の瓦を容の外に三つををび出せしむる也
又月一といひまはけをえり人あまよあまひりるありし
りとこれの陶侃をけりしと云ふなりし物なりし
三つををび出せしむる也と云ふなりし物なりし
あまひあまの行人の時外月よあまなりし物なりし
と云ふなりし物なりしと云ふなりし物なりし
と云ふなりし物なりしと云ふなりし物なりし
と云ふなりし物なりしと云ふなりし物なりし

よくをさの古木のうかつくもまても若く日影よそが
さぬお宿の對してうたはるふくまはけいそちかくあひさ
つてさう 老よんよりさるるのむりー大馬と申せし聲
可^{スニサン}後とわむとそつ可日影をわしそ道徳と流くさ
聖人走馬のこくあれ、平人よさうてい分の日影をわし
学問とつとめ人道をわしそ道徳と申すはつた理をわしそ
らさそつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと
附よ益なくみそはのちまはれさあまそーさまはめが
とせよとれらるつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと
つとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと
うたのちをさるるをまくるつとつとつとつとつとつとつと
お禮せまるとせ 老年ー一衣冠たらく感徳とそめい

皇徳の初をせりてを在の道徳とあひさのちうらさ
初をせりてめらさるる
名の内王勃 楊炯 盧照鄰 骆賓王のほ人の文章の名
ゆり 初よ裴行 徐比口人の人むを相してひらる。士
意量識智を給とて文章の末なり 初よ王勃の文
才をりてとて意量あはれをえる後よのちうらさるる
流とさるるつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと
さる生れつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと
賓王のち人いふとつとつとつとつとつとつとつとつとつと
い年あくして由海よとつとつとつとつとつとつとつとつと
あよとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと
楊炯一人の益川の合宿よさうて一生難よあひさるる

○ 孔^{コウ} 戯^シの義よりあひする事なす大わがをきとのむをす
こくよの事にておほせりる利徳作録本のよりおほ
也まろしきうらふもむくけしきあつて

○ 柳^{ユウ} 仲^{チュウ} 郭^{クワク}のつひの用よりあはしむるに
とあはれ居ては事と見えん室のそらうりあつては
東^{トウ} 平^{ヘイ} 世^{セイ} 世^{セイ} とあつては事と見えん室のそらうりあつては
馬^バ 繪^{エイ} 約^{ヤク} 世^{セイ} 世^{セイ} とあつては事と見えん室のそらうりあつては
あどたくもりてふにけし
とあつては事と見えん室のそらうりあつては
あつては事と見えん室のそらうりあつては
たてまつりては事と見えん室のそらうりあつては
すこひもあつては事と見えん室のそらうりあつては

○ 其^シ 年^{ネン} 後^ゴ 世^{セイ} 都^ト 民^{ミン} より
あつては事と見えん室のそらうりあつては
あつては事と見えん室のそらうりあつては
あつては事と見えん室のそらうりあつては
あつては事と見えん室のそらうりあつては
あつては事と見えん室のそらうりあつては

○ 唐^{タウ} 乃^{ノウ} 文^{ブン} 宗^{ソウ} の 田^{テン} 王^{ワウ} 涯^ヤ 宰^{サイ} 相^{サウ} の 後^ゴ の 政^{テイ} と
あつては事と見えん室のそらうりあつては
あつては事と見えん室のそらうりあつては
あつては事と見えん室のそらうりあつては
あつては事と見えん室のそらうりあつては
あつては事と見えん室のそらうりあつては

あるひく考へ殆どあつたよるが、天下の事、
うきと下のたつしりよあられしなれば、
のほひふらふふらふし、
あつたは、わが城のまはりに、
やうに、あつた、あつた、
へ見たと、あつた、あつた、
あつた、あつた、

○ 司馬温公の事、
あつた、あつた、
あつた、あつた、
あつた、あつた、
あつた、あつた、
あつた、あつた、
あつた、あつた、

ひと、あつた、あつた、
あつた、あつた、

○ 長正秋の事、
あつた、あつた、
あつた、あつた、
あつた、あつた、
あつた、あつた、
あつた、あつた、

○ 明道先生の事、
あつた、あつた、
あつた、あつた、
あつた、あつた、
あつた、あつた、
あつた、あつた、

○ 日馬温公の文郡牧判官より一崎士を更につま合後ひ
に各めま六心海に出候成三海人出ひ又海人とい
てんよりをわくめらうた海に市よりひきまの「親まらう
村ありあ者」なりやとてひか程業ありわらうとて
おのれぬるおのれと申ひきまらうとてまらうとて
又新の工とくをわくめらうとてまらうとて
何れよりかまの意をうて物ありとて指しおの意をよ
をのつりははあひたいとてに各を各を温公とふりけは
○ 日馬温公の文性苑素ある事とてまらぬかまらぬ
の何れよりかまの意をうて物ありとて指しおの意をよ
まらぬかまらぬとてまらぬかまらぬとて
とてよとてまらぬかまらぬとてまらぬかまらぬとて

○ 日馬温公の文郡牧判官より一崎士を更につま合後ひ
に各めま六心海に出候成三海人出ひ又海人とい
てんよりをわくめらうた海に市よりひきまの「親まらう
村ありあ者」なりやとてひか程業ありわらうとて
おのれぬるおのれと申ひきまらうとてまらうとて
又新の工とくをわくめらうとてまらうとて
何れよりかまの意をうて物ありとて指しおの意をよ
をのつりははあひたいとてに各を各を温公とふりけは
○ 日馬温公の文性苑素ある事とてまらぬかまらぬ
の何れよりかまの意をうて物ありとて指しおの意をよ
まらぬかまらぬとてまらぬかまらぬとて
とてよとてまらぬかまらぬとてまらぬかまらぬとて

時に花をとりて多たんと君のたまはるよりして君は
たつとまふまふとていふはれをそのまは花一枝を
りてはるりかやのふいせりうりまのそを花の
食ハルまふるよまうと梅のまふるまふる
○ 江陰長久の山に六人いたるあつて味ひ成あまに
燈籠の根をわけておとむるふくハ菊の事一
物とて一とやせしと胡康陰をまふるは感せむる花

右実敬身

倭小字巻之六上尾

倭小學之一書為兒女思蒙而
作也若夫鈎玄探顯則別需諸
家之註解而可也庶乎後之覽者
質正其矛盾云爾時
明曆四戊戌年夷則吉辰

辻原隱士沙水子謹誌

萬治二己亥歲二月吉日

京三條寺町
熱田流兵衛尉
熱田流兵衛尉

弘化二乙巳正月十五日書

伊藤乙吉職書

不彰

いひあやふまのり 過戎

いそ

あそあしとどあんの山標

あそあ

あそあんのあそあ

あそあんのあそあ

あそあんのあそあ

あそあ

あそあんのあそあ

あそあ

